

地域活性化伝道師プロフィール		分野	◎
ふりがな		矢原 しょうじ	
氏名		矢原 正治	
所属	名称	熊本有用植物研究所	
	役職	代表	
連絡	住所	〒869-1101 熊本県菊池郡菊陽町津久礼146-14	(職場)
	連絡先	E-Mail yaharashoji[at]gmail.com	
	連絡先	TEL 080-2711-5248 FAX 096-232-2053	
	連絡方法	E-Mailでお願いします	
略歴	<p>熊本大学 薬学部 薬用植物園(薬用資源エコフロンティアセンター)センター長、准教授          熊本大学 環境安全センター 兼務教員及び委員、安全委員会委員長 など          熊本大学薬学部 環境安全委員会委員長          熊本大学薬学部 環境ISO14001取得委員会 委員長、運営委員          熊本学園大学/湖東学園 非常勤講師 をしていた。          2001年6月1日 熊本大学環境保全センター 助教授 ~2006年3月31日          2003年4月1日 熊本大学大学院薬学教育部附属薬用植物園 園長 ~2010年3月31日          2010年4月1日~熊本大学薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター准教授/センター長          2014年7月9日~ ネパール ポカラ大学理工学部(薬学)客員教授          2015年3月31日 熊本大学 退職          2015年4月1日~2016年3月 熊本大学薬学部 (客員教授、学術研究員)          2016年4月~ 熊本大学生命科学科(看護学科)非常勤講師          2016年6月~ 杉葉峰園 学術顧問          2016年10月~ 熊本県立大学 環境共生学部食健康科学科 研究員          2017年6月~ 山口東京理科大学 薬学部設置準備室 特命教授          2018年2月~ ネパール AITM大学 客員教授          2018年4月から 山口東京理科大学 薬学部 特命教授、薬用植物園管理者          2020年3月 山口東京理科大学 退職          2020年4月 自宅にて、熊本有用植物研究所 所長          2016年~2023年現在 熊本県立大学 環境共生学 研究員</p>		
著作・論文等	<p>&lt;著書&gt;          1. 熊本大学放送公開講座, 薬用植物—医薬をささるもの, 熊本大学, PP 65-75 (1990).          2. T. Nohara, S. Yahara and J. Kinjo, Saponins: Chemistry and Biological Activity, G.R. Waller and K. Yamasaki ed., Plenum Pub. Co., New York, 404, 263-276 (1996), Bioactive saponins from solanaceous and leguminous plants.          3. 「植物色素研究法」(2004), p39-69, 大阪府立大学出版会版 (分担)          4. 大学のISO14001—大学版—環境マネジメント(2004)p136-139, 研成社.          5. Takashi Watanabe, Keshab Raj Rajbhandari, Kuber Jung Malla, Shoji Yahara, A Handbook of Medicinal Plants of Nepal ; (2005), p1-262, NPO Ayur Seed Life Environmental Institute (Ayurseed L.E.I.).          6. 薬草ガイドブック—薬草園へのいざない—, (2006. 3), 社日本植物園協会第四部会 (分担)          7. 伝統医薬学・生薬学(2009, 4), 南江堂 (分担)          8. 薬用植物ガイド(2010, 4), トンボ出版(分担)小西天二、磯田進、邑田裕子、矢原正治          9. 台所の薬草ガイドブック—食材の機能を楽しむ—(2011年), 社日本植物園協会第四部会 (分担)          10. くまもとの身近な薬草(2011. 10) 熊本県薬剤師会 (分担)          11. 日本の有毒植物(フィールドベスト図鑑 vol.16), (2012年5月), 学研教育社(分担)          12. 水前寺薬の科学—その魅力と不思議に迫って—(2012年7月) Aboc社(分担)          13. Takashi Watanabe, Keshab Raj Rajbhandari, Kuber Jung Malla, Hari Prasad Devkota and Shoji Yahara (2013) A Handbook of Medicinal Plants of Nepal Supplement I, Non-Profit Organization Ayurseed Life Environmental Institute (Ayurseed L.E.I.), Japan, ISBN: 9784990657208.          14. 薬草ガイドブック—野外編—(2014. 4), 社日本植物園協会第四部会 (分担)          15. ぐらしの中の薬草(2016. 3), 自費出版(矢原、米田、八十島)          16. ぐらしの中の薬草(山口版)(2018. 3), 山口東京理科大学(矢原、磯田、米田、八十島)          17. 薬草ガイドブック—野外編2—(2020年4月), 社日本植物園協会第四部会 (分担)</p> <p>&lt;雑誌等の著書&gt;          1. Shoji Yahara and Yasuo Kishimoto (1980) High Performance Liquid Chromatography of Membrane Glycoside; Assessment of Cerebrosides on the Surface of Myelin; ACS symposium Series No. 128, Cell Surface Glycolipids, 15-33.          2. 矢原正治、ナス科植物の有効成分、および毒草による中毒、薬用植物研究、1997年1号。          3. Toshihiro Nohara, Shoji Yahara and Junei Kinjo (1998) Bioactive Glycosides from Solanaceous and Leguminous Plants, Natural Product Sciences, 4 (4), 203-214.          4. Shoji Yahara (2003) Pigment ingredients with physiological activity in the textbook of crude drug studies; Foods &amp; Food Ingredients Journal of Japan(2003), 208(9), 693-697.          5. 矢原正治、日本の薬用植物園—熊本大学大学院薬学教育部附属—、月刊漢方療法、(2006)、9、6~13。          6. 矢原正治、生薬(薬用植物)学の見地から、漢方と最新医療、(2009)18(3)、191-198。          7. 矢原正治、目で見える漢方薬・生薬(15)~竹節人參へ、医薬ジャーナル、(2010)、3、p5-15。          8. 矢原正治、目で見える漢方薬・生薬(19)~菊花へ、医薬ジャーナル、(2010)、7、p5-15</p> <p>&lt;論文&gt;          1) Hari Prasad Devkota, Sena Miyazaki and Shoji Yahara (2017) Amantoflavone and kaempferol glycosides from Cissampelos pareira. Nepal Journal of Biotechnology, 5, 1-4.          2) Hori Kengo, Mikiyo Wada, Shoji Yahara, Takashi Watanabe and Hari Prasad Devkota (2018) Antioxidant phenolic compounds from the rhizomes of Astilbe rivularis. Natural Product Research, 32, 453-456.          3) Hari Prasad Devkota, Bibek Adhikari, Takashi Watanabe and Shoji Yahara (2018) Non-volatile chemical constituents from the leaves of Ligusticopsis wallichiana and their free radical scavenging activities. Journal of Analytical Methods in Chemistry 2018, Article ID: 1794650. その他150報文など</p>		
取組概要	<p>1) 2016年~農場(畑)での薬用植物・有用植物の栽培、育種の研究          2) 認定NPO法人 阿蘇花野協会での阿蘇の草原再生(草刈り、草集め、野焼き)と有用植物の調査&amp;観察会、副理事          3) 薬用植物を知らずには熊本を毎年一回開催しています(2022年は22回目)          4) 八幡薬師師会の血倉山での薬用植物観察会の講師を担当          5) NPO法人 環境園研究所 湯山での森林環境改善の作業&amp;講師          6) NPO法人 アーコルシード生活環境研究所 代表</p>		
メッセージ	有用植物を利用し、環境を考える: お時間がありましたら、連絡をし、お茶でも飲みにお立ち寄りください。		
関連ホームページ	<a href="https://sites.google.com/view/yaharayakusou/">https://sites.google.com/view/yaharayakusou/</a> <a href="https://www.tamtam39.com/">https://www.tamtam39.com/</a> <a href="https://www.instagram.com/tamtam_room/">https://www.instagram.com/tamtam_room/</a>	活動エリア	九州圏

※ 公開できる情報のみ掲載しています。  
 ※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。  
 ※ メールを送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。